令和３年　神奈川県議会　第３回定例会　厚生常任委員会

令和３年10月14日

谷口委員

県のホームページを見ると、今回の第２弾事業の結果速報が掲載されています。抗原検査キットの利用状況ということで配布総数が75万3,158世帯とありますが、この数字を皆様は承知していますか。お配りした対象者から、どのような仕組みで返してもらっているのか、また、何を回答してもらっているのか確認します。

感染症対策担当課長

キットを使っていただいたときに、ＬＩＮＥパーソナルサポートを使って、キットの利用状況、陽性か陰性、あるいは判定不能なのかという回答を頂きます。その後、どのような行動をされたか、行動抑制されたか、受診をされたか、それから、追加でキットが必要な方は改めて申し込んでいただくような回答ページを用意しております。

谷口委員

第１弾では陽性になった場合、例えば、通勤通学や外出を控えた方が98％という結果が出ています。今回の結果速報にはそのようなものがなく、10月８日時点で陽性者が259名で5.0％、陰性者が4,828名の92.6％、判定不能が127名、2.4％とありますが、その後の行動については掲載されていません。どのような行動をされたのでしょうか。

感染症対策担当課長

その後の行動は集計ができておらず、掲載できませんでした。

９月時点で、陽性になった方の８割以上の方が行動抑制し、約70％の方が医療機関を受診したというデータもあります。

谷口委員

ほぼ第１弾に近い形で行動抑制や受診につながっていると思います。

陽性者が5.0％ということですが、この程度の割合で出てくるものなのでしょうか。

感染症対策担当課長

無症状の方ではなく、症状がある方に使っていただくものなので、10％未満の陽性率となることを想定していました。５％が多いか少ないかという評価はできていません。

谷口委員

抗原検査キットで陽性になった259名が、その後、例えば、受診やＰＣＲ検査という詳細な検査を受けたことによる陽性率を把握していますか。

感染症対策担当課長

そこまでのデータは把握していません。

谷口委員

そういった回答は求めていないのですか。

感染症対策担当課長

はい。

谷口委員
　今後はそういったことも追跡し、抗原検査キットの精度も把握できるようにするべきだと思います。
　最後に、75 万 3,000 世帯の方に送付して使用していただくことで、かなり大きなデータが得られると思いますが、得られたデータをどのように活用することを考えていますか。
医療危機対策本部室長
　今回の事業で得られたデータは抗原検査キットを全国的に活用する動きが他自治体にもあるので、神奈川県だけではなく、横展開を進める上で有用なデータだと思います。データを国にも提供し、事業の効果を周知していきたいと考えております。
谷口委員
　国への提供先はどこですか。
医療危機対策本部室長
　厚生労働省です。
谷口委員
　医療分野の感染拡大を抑えるという目的は大事なものですが、得られたデータを今後予想される感染拡大の第６波に備えて、様々な活用ができるように整備することをお願いして、質問を終わります。

意見発表

谷口委員
　公明党を代表して、意見発表を行います。
　本日提出された補正予算案には、抗原検査キットの園児、児童等への追加配布として３億 9,600 万円が計上されています。今月末が有効期限となっている約 40 万件のキットを廃棄し、改めて追加購入して配布することになりました。今回の一連の手続を振り返ると、一度立ち止まって冷静に考え、確認する必要であったと考えます。多忙なことは十分承知していますが、今後は、手続を慎重に行うよう求めます。
　一方、今回の抗原検査キット配布事業の第２弾では、75 万 3,158 世帯にキットを配布しており、10 月８日時点で利用した人が 5,214 人、そのうち陽性の反応が出た人が 259 名、さらに、この 259 名のうち、８割近くが追加の検査等を受けたということでした。今後は当事業の評価をしっかり行うとともに、事業で得られたデータを今後の対策にしっかりと生かすことを要望します。
　以上、意見、要望を申し上げ、当委員会に付託された議案に賛成し、意見発表を終わります。